

ことばの学び



「現代の国語」
教材ガイド

No.1

1年説明文教材

玄関扉

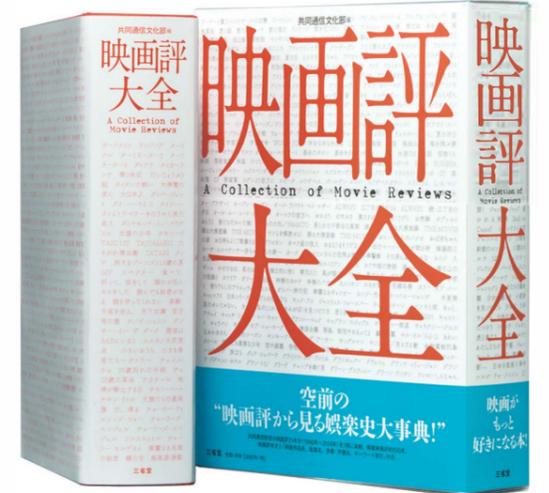
身近な題材を対比で捉えた文化論。



映画評大全

プロが書く、批評文。

1996年から20年間にわたって、共同通信社が一般紙に配信した映画評約930本（1本につき700字）が収められている。読者に向けて「わかりやすく書く」こと、「独りよがりにならないように書く」ことなど、批評文を書くうえでのヒントが得られる一冊。



共同通信文化部 編
2016年
A5判 576ページ 5,800円+税
ISBN 978-4-385-15112-0

日米ボディートーク 増補新装版



東山安子、ローラ・フォード 編著
2016年
四六判 336ページ 1,800円+税
ISBN 978-4-385-10768-4

10代からの 哲学図鑑



マーカス・ウィークス 著
2015年
B5変型判 160ページ 2,200円+税
ISBN 978-4-385-16235-5

「チーム学校」を創る



高木展郎、三浦修一、白井達夫 著
2015年
A5判 208ページ 2,400円+税
ISBN 978-4-385-36177-2

今日、一人の教師が担える教育活動には限界がある。教職員全員で協働するとともに、家庭や地域、社会と連携し、一つの「チーム」として子供たちに向き合うことが求められている。戦後から現在、未来に向けた教育観・学力観を読み解き、「チーム学校」の意味を考える。「チーム学校」づくりに取り組んでいる学校の具体的なエピソードも満載。

変わる学力、 変える授業。



高木展郎 著
2015年
A5判 232ページ 2,300円+税
ISBN 978-4-385-36179-6

株式会社三省堂

〒101-8371 東京都千代田区三崎町2-22-14 03-3230-9411(編集)・9551(営業)

- 大阪支社 〒530-0002 大阪市北区曽根崎新地2-5-3 06-6341-2177
- 名古屋支社 〒460-0002 名古屋市中区丸の内3-21-31 協和丸の内ビル 2F 052-953-9211・9212
- 九州支社 〒810-0012 福岡市中央区白金1-3-1 092-531-1531・1532
- 札幌営業所 〒060-0042 札幌市中央区大通西12-2-1 ラスコム15ビル3F 011-616-8722

※本誌は、一般社団法人教科書協会「教科書発行者行動規範」に則って作成しており、弊社の広報誌として配布しています。

「玄関扉」

渡辺武信

Design 宮内 佑
Illustration 加納徳博

教材の特徴／ 学習指導のポイント

★《身近な題材》を《対比》で捉えた文化論

- 日本文化・異文化コミュニケーション理解
- 対比的思考、具体・抽象の概念操作力の育成

★同じ《事実・現象》から導かれる

- 多様な《意見・解釈》
- 事実と意見の読み分け
- 多角的視点の獲得／自己の考えの形成

★明快な思考の組み立て《ロジック》と

- 巧みな文章展開《レトリック》と表現力につながる論理的思考力の育成／筆者との対話



自分の中に 「読者の目」をもつ



「玄関扉」原著者
渡辺武信

創造という行為においては、「何を」つくるかと共に「いかに」つくることが問われます。住宅を設計する時も文章を書く時も、「何を」は創造の根幹をなすものですが、私が特に重視しているのは「いかに」の部分で、その面の表現をじっくり考えて、実行するプロセスに心を配ります。

建築でいえば、「いかに」の過程で欠かせないのは、依頼主(クライアント)をはじめ、資材や部品のメーカーや大工さんに代表される現場の職人さんたちとのコミュニケーションです。建築は設計側のスタッフを含めてチームで行う仕事なので、さまざまなタイプの人々と共感できる人間関係を生み出すために、単に専門的な知識に関わる面だけではなく、雑談力を含めて多角的な視点を含む問題解決力と交渉力が求められるのです。こうした過程を経てはじめて、クライアント、つまり住み手にとっての「住み

心地」を追求していきけるのです。

文章についていえば、「いかに」書くかにおいて私が留意しているのは、「論理性」と「わかりやすさ」です。「論理性」というと堅苦しく聞こえるでしょうが、これがきちんと整うことで「わかりやすさ」が実現するのは、「わかりやすさ」があれば、文章を読み進めていく読者に「楽しさ」「おもしろさ」が感じられるようになると思っています。文章の展開においては「したがって」「だから」のような順接、「しかし」「もつとも」のような逆接が明解になるように気をつけています。この点の配慮が足りないと文章の全体像がぼやけます。順接、逆接にあたる接続詞的なことばは数多いので、それらを上手に使い分けて接続詞そのものが目立たなくなるようにする配慮も必要でしょう。

また論理的な筋道を堅持しつつも、ときにはそこから逸脱しても「伏線」と「回収」※注というしかけを意図的に使うこともありま

す。私の文章は一見して「寄り道をしている」ように見られることがよくあるのですが、それは読者の足取りを直線的に結論に導くのではなく、結論までに多様な選択肢もあ

PROFILE

わたなべ・たけのぶ

建築家・詩人・映画評論家。一九三八年、横浜市生まれ。東京大学工学部建築学科卒業後、同大学院修士・博士課程修了。大学院在籍中に渡辺武信設計室を開設。詩人、映画評論家としてのキャリアも学生時代を起点とする。著書に『渡辺武信詩集』『移動祝祭日』『住まい方の思想』『住まい方の演出』『銀幕のインテリア』『日活アクションの華麗な世界』などがある。

*注 映画批評用語。ある重要なシーン・できごとの前に、それに関連した事柄をさりげなく示しておく(=伏線)、話が進んでいく過程やクライマックスにおいて、伏線として置かれていた事柄の意味(関連性)を観客に呼び起こさせる(=回収)技法。

目をもつようにしています。書き進めていく推進力となるのは、確かな筋道を組み立てる論理的思考力ですが、それは「論理」と呼ぶよりも、読者の立場に身を置いて、息を合わせていくのに似ていて、「呼吸」と名づけるほうがしっくりするように思えます。(談)

*二〇一六年八月二十五日、ご自宅にて取材。文責・編集部。



授業展開 アイデア

※ここでは発問を中心に構成しています。また、学習指導書とは別の展開例を紹介しています。

1時

発問 《導入》

皆さんは、友達や家族と話しているときに、一つと同じ事実について全く別の考え方や見方が出てきた経験はありませんか？

ポイント

- 導入時の発問は、以後展開する学習への「動機付け」の役割がある。動機付けには、関心意欲の喚起とともに、スキーマの形成・活性化が含まれる。
- 教材の題材に結びつけた発問（例）皆さんの身の回りにはあるドアは内開きですか、外開きですか？の他に、ここに提示したような、「つけない力」に連関させた発問（多様な見方・考え方の獲得、自己の考えの形成）も準備しておきたい。
- 例を示し、それぞれの意見・解釈の根拠を発表させてもよい。
- 「飼い犬を部屋に入れる」↓犬に対して優しい／しつつけの面でよくない
- 「プロ野球選手がガムをかみながらプレーする」↓問題ない／避けるべきだ
- 「半分終わった宿題」↓もう残り半分だ／まだ半分も残っている

発問

本文を読み、日本と欧米の玄関扉について、表に整理しましょう。

↓「読むこと」ワークシート（学習指導書「データ資料集DVD」／デジタルテキスト）

↓朗読CD（8分46秒）

2・3時

発問

この文章の内容を、小学校三・四年生にもわかるように要約してみましょう。

ポイント

- 他者に「説明」することは、自己の読解（理解）を促進させるため、こうした活動は読解力向上の有効な方略である。
- 小学生を読み手の対象に設定することで、「解釈」「親和的」などの、抽象的で捉えづらいことばの意味をよりの確に理解し、具体的に易しいことばに言い換える必要が生じることになる。
- 個人作業の後で、難語句の言い換えや、「客↓外敵」「おじぎ↓握手」といったキーワードの取捨選択など、要約にあたっての工夫点を交流・相互評価させたい。

発問

教科書131ページを開いて、「三角ロジック」について学習しましょう。

ポイント

- 「三角ロジック」を教材本文の読解に活用することをねらいとして、「同じ事実」から異なる「主張（考え・解釈）」が導かれることを押さえ、それが「理由づけ」の違いによるものであることを中心に理解させる。
- 教科書131ページの「読み方を学ぼう」の図をより初歩的に示した下図を提示してもよい（ここでは、「主張（考え・解釈）」までも同じものとしている）。はじめはAのロジックで解釈 されていたものが、後にBのロジックの解釈に転換していくという、筆者の文章展開（レトリック）の効果を押さえたい。

ミニ情報 1

靴を脱ぐ？ 脱がない？

家の中でも靴を脱がない文化がある。そうした文化圏の人は、いつ、どこで靴を脱ぐのだろうか？ 脱いだ靴はどうするのだろうか？ その答えはさまざまだ。欧米でも玄関ですぐにスリッパに履き替える習慣をもつ国や家庭も多いが、就寝したり入浴したりするまでは靴を脱がず、ベッドにも土足で上がる習慣をもつ人もいる。衛生面やリラクゼーションの面から、家の中では靴を脱ぐのが合理的という考えがある一方で、家族以外の人がいる場所や、あらたまった状況において靴下や裸足を人に見せることに抵抗をもつ（あるいはエチケットに反すると考える）習慣や文化もある。

ある。欧米では、靴をいつどこで脱ぐかによって、玄関付近に置かれた靴箱にしまう場合もあるし、個人の部屋のクローゼットの中にもしまう場合もある。後者については、衣服に合わせてバッグや靴と一緒にコインネットできるから便利だという見方がある。脱ぐ文化、脱がない文化、それぞれに目を向けてみたい。

学習目標 学習指導要領対応項目

- 文章に示された事実と筆者の意見と理由を読み分けて、要旨を捉える。
- 玄関扉の例を中心に、文化の違いについて、自分の考えをもつ。

評価規準

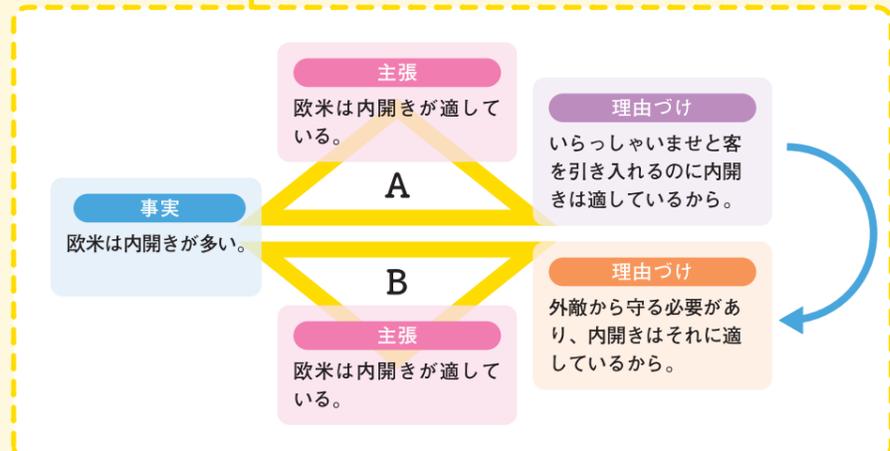
- 国語への関心・意欲・態度
- 事実と意見と理由とを読み分けて要旨を捉えようとしたり、文化の違いについて自分の意見をもつとしたりしている。

読む能力

- 文章に示された事実と筆者の意見と理由を読み分けて、要旨を捉えている。
- 玄関扉の例を中心に、文化の違いについて、自分の考えをもっている。

言語についての知識・理解・技能

- 事象や行為などを表す多様な語句について理解を深め、文章の中の語彙について関心をもっている。



発問

「引き戸」について調べて、筆者の書き方にならって書いてみましょう。

ポイント

- ここでいう「筆者の書き方」とは、引き戸の構造を説明すること。
- 引き戸のもつ短所と長所を、開き戸（ドア）と比べて述べること。
- 日本の生活習慣・挨拶・エチケットと関連づけて自分の解釈（意見・考え）をもつこと。
- 「一方（で）」に比べ（て）」「だが」「つまり」などのことばを用いて、わかりやすく論理的に表現すること。
- 「ほく」「けれど」「だろう」など、やわらかい言い回しを用いていること。
- などである。これらの特徴を本文から取り出す活動を行ってから、書く活動に取り組んでもよい。
- 「私の本棚」で紹介している筆者の「住まい方の演出」（中央公論新書）の33～38ページの部分には「引き戸」についての記述がある。また、インターネットでも「引き戸」の構造や長所短所について情報収集が可能である。

発問

この文章に「サブタイトル」をつけてみましょう。

ポイント

- グループで一つのサブタイトルをつける活動や、コンテスト形式での実施も考えられる。
- その場合、なぜそのタイトルを選んだのか、理由を説明できるようにする。
- 例 扉から見る日本人・欧米人／扉と文化の不思議な関係 など
- 単元の学習全体の振り返りに位置づけているが、冒頭に課題設定することもできる。

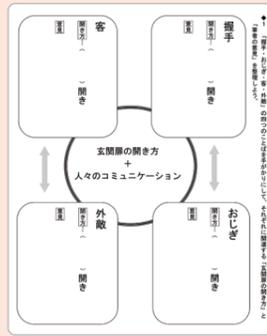
「玄関扉」授業サポート 授業構想に役立つ指導書・教材をご案内します。

『現代の国語』学習指導書1

- ▶ 『教材研究と学習指導 下』 p.71～95
*教材提出の意図や構成、語句・表現の解説、学習展開例、生徒反応例、評価規準例などを掲載しています。
- ▶ 『「読み方を学ぼう」活用ガイド』 p.36～43
*「玄関扉」で学習する「三角ロジック」の活用例を掲載しています。「三角ロジック」を他の教材で学習する際の参考となる図解もあわせてご覧ください。

『データ資料集DVD』

*DVD内には、「玄関扉」の「本文データ」「テスト問題例」「ワークシート」「漢字ワークシート」などがデータで収録されていますので、ご活用ください。データは、pdf形式の他、追加・修正が可能な「ワード (.docx)」（本文データは「一太郎 (.jtd)」「テキスト (.txt)」も含む）形式があります。



「ワークシート（部分）」

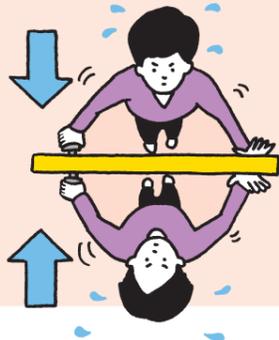
『現代の国語』学習指導書【朗読CD】1

- ▶ 『現代の国語』指導者用デジタルテキスト／学習者用デジタルテキスト
- ▶ 『例解新国語辞典』『例解新漢和辞典』など各種辞書

『例解新国語辞典 第八版』より

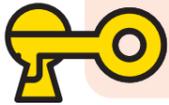
- ぐたい【具体】(名) 目に見える形があること。
- ちゅうしょう【抽象】(名・する) ①見たり聞いたりしてとらえた、いろいろなものの中から、共通する性質をぬきだすという頭のはたらき。②ものごとからその要素や性質をぬきだして、頭の中であらためてとらえなおしたもの。

【辞書活用】「玄関扉」において、読者は「玄関扉という具体物」とその背景に存在する文化や見方・考え方を解いた「解釈という抽象的なもの」の間を行き来する。こうした「具体」と「抽象」の往還という思考プロセスの自覚化は読解力の向上につながるものである。これらの意味を辞書で確認させつつ、メタ認知を駆動する学習を展開したい。



『現代の国語』学習指導書【朱書編】1 p.124～133

*教科書と同じ紙面を使用し、解説を「赤字」「青字」の2色で示しています。



ドアの開き方いろいろ

「玄関扉」の中では、外開きのドアが多い日本において、内開きにこだわる住宅設計者もいると書かれているが、設計者の裁量に委ねられない場合もある。

例えば、ホテルの客室。一般的な住宅に比べて、多くの利用客が廊下を通るため、外開きにするとうつかる危険がある。また、災害時に避難経路の妨げにならず、人々が速やかに避難できるよう、あえて「内開き」に設計されている。

映画館や劇場などはどうだろう。これらの不特定多数の人々が集まる施設については、避難時に「人々が向かう方向」にドアを開くように法律で定められている。（建築基準法施行令第112条第14項第1号ハ、第118条、第125条など）。そのため、映画館や劇場の客席から出口に向かうドアは「外開き」になっている。

「災害時の避難」という同一の場面をとりあげても、建物の特性によってドアの開き方が異なることがわかる。身の回りのドアに目を向けて、その開き方の背景を考えてみるのもおもしろい。

関連図書・資料

- 『世界のドア』 マルクス・セバスチャン・ブラウン編 グラフィック社 2012年
- 『それ日本と逆文化のちがいが習慣のちがい』（全6巻）須藤健一 学研教育出版 2012年
- 『ほんのちよっとした違いなんです』 日常生活の日本文化比較 池田和子 タイムス 2002年

教育トレンド用語

「三角ロジック」

論理的思考力を育成するためには、具体的な方法や手立てを用いることが有効である。その一つとして注目されているのが、「三角ロジック」である。

「主張」の部分には、いわゆる主張だけでなく、考えや意見などが入り、「事実」には、客観的な事例や調査結果などのデータが入る。「理由づけ」は、提示した「事実」がなぜ「主張」を裏づけることになるかを示す部分であり、そこには「事実」の解釈や、価値観が反映される。

論理的に考えるためには、これらの三つの要素を取り出して、互いを結びつけながら、それぞれの内容を考えてたり確かめたりすることが重要である。このときの、思考の方法や様子が、「三角形の頂点を行き来するように」見えることから、「三角ロジック」と呼ばれている。また、この三角形をピラミッドや屋根に見立てると、「主張」が「事実」と「理由づけ」によって支えられていることがわかる。

「三角ロジック」は、なぜそういえるのか、という筋道の通った思考をするために、広く活用できる方法である。

次号予告

2年小説

「ポテト・スープが大好きな猫」（予定）

テリー・ファリッシュ

【訳】村上春樹

